

インターネットは冒険だ

藤代 裕之 文

① インターネットのおかげで、わたしたちは気軽に、世界中のさまざまな出来事を知ることができるようになった。次々に現れる新しい情報を得ていくことには、自分の世界が広がる冒険のような楽しさがある。しかし、冒険は楽しくもあるが危険もともなうため、じゅんぴが必要だ。それは、インターネットの特徴と危険を知っておくことである。

② もしあなたが、こんな家族の会話を聞いたとしよう。

「近くの川で人がおぼれたみたいだけど、助かったようだね。」

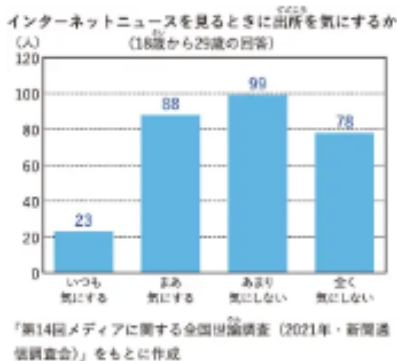
「それ、小学生が助けたって、インターネットで話題になっているよ。」

③ 確かに近くの川に人だかりができていて、さわぎになっていた。友達とも見に行ってみたが、それがニュースになっているようだ。

④ インターネットの大きな特徴は、だれもが情報を発信できるということだ。これまで世の中で起きた出来事を伝えてきたのは、主にテレビや新聞だった。テレビや新聞は、そこに所属する記者が取材して確かめたものを、番組や記事にしてとどけている。インターネットでは、記者でなくても、スポーツ選手や宇宙飛行士などの有名人、そしてわたしたち自身まで、さまざまな人が情報を発信することができるようになった。そのおかげで、わたしたちが知ることができる世界は大きく広がった。

⑤ しかし、だれもが情報を発信できるために、記者が取材したニュースから、自治体や企業、そして個人が発信したもので、さまざまな情報が入り混じってしまっている。人がおぼれたという事故も、その場にいた人ならだれでも、すぐに発信できる。テレビや新聞では報じていない情報もあるが、うそや大げさなものも混じるといふ危険がある。

⑥ だからこそ、「インターネットの話題」をだれが



つけられていた。動画サイトには「自分も小学生を見た」といったコメントが多く書きこまれていて、友達は、助けたのは小学生にちがいないと信じてこんでいた。

⑫ インターネットのもう一つの特徴は、読み手の一人一人にとどく情報がちがうということだ。それは、読み手に合わせた情報をコンピューターが選ぶことができる仕組みがあるためだ。インターネットにはたくさんの情報があるため、コンピューターが自動で自分に合わせたものを選んでくれることは時間の節約にもなり、とても便利である。

⑬ しかし、この仕組みにより、わたしたちは知らず知らずのうちに「フィルターバブル」というものにおちいる危険がある。これは、自動的に情報が選ばれることで、自分の興味がある情報、自分がそうだと思いやすい情報にかこまれてしまうことだ。この「フィルターバブル」に、自分で気づくことはむずかしい。かざられた情報にしかふれなくなることで、広い世界を見ているつもりでも、いつのまにか見方や考え方がせまくなってしまふのだ。



フィルターバブルの仕組み

⑭ 自分がふれる情報だけが「正しい」と思いこまないようにするためには、友達や家族などの周りの人たちと話してみることが大切だ。そうすると、ほかの人が見ている情報が少しずつつちがっていることに気づくかもしれない。そのちがいに気づくことで、新たな発見を得ることもできるだろう。

⑮ このように、インターネットには危険がひそんでいる。うそや大げさな情報、お金のために情報を拡散する仕組み、知らない間に「フィルターバブル」におちいる罠。これらの危険に気づきにくいのは、気軽に便利に使えるための仕組みが、同時に危険を生み出しているからだ。

⑯ あなたが知っておどろいたニュースも実は、思わぬところから生まれ、インターネットを駆けめぐり、たどり着いたものかもしれない。その危険性を理解しておけば、おどろきのニュースや新しい出来事に満ちたインターネットは、いろいろなものに出会う、わくわくできる冒険になるはずだ。

発信しているのかを確かめることが大切なのだが、インターネットでニュースを見るときに出席を「気にする」人は、二十代以下では半分にも満たない。ふだんの生活では、だれだか分からない人の話を真に受ける人は少ないが、インターネットの情報になると、だれが話しているか確かめない人が多くなるのは不思議なことだ。

⑦ 話題になっているサイトを見ると、「救助の様子を見ていた子どもが、小学生が助けたと言っていた」と書いてある。救助の様子はよく見えなかったけれど、ふとした思いつきで、と友達に言ったのは自分だ。もしかして、自分の話した内容がインターネット上に広がっているのだろうか。

⑧ インターネットには、情報が広がるのが速いという特徴もある。ニュース記事やSNSには、ボタン一つですぐに情報を「シェア（共有）」する仕組みがあるからだ。その場で起こっていることをいち早く知らせることができるので、台風や地震といった災害時には、この仕組みを使って人を助けることもできる。

⑨ 一方で、この仕組みは、事実かどうか不確かのまま、さまざまな情報がインターネット

トを駆けめぐることにもつながってしまう。自分が何かを伝えた相手が友達や家族などのかざられた中であつても、それが伝言ゲームのように別のだれかに伝わり、いつのまにかインターネットで発信されてしまうことがある。それは、何も事件や悪いことにかぎらない。だれかを心配する気持ちや、その情報がよいものだと思ったことも出発点になる。うわさが拡散していくうちに、いつしか本当のことであるかのように変化していくこともある。

⑩ 情報が広がるのは、インターネットのもう一つの仕組みにも原因がある。それは、多くの人が情報を見れば、その情報を発信している人にお金が入るといふ仕組みである。情報が正しいかまちがっているかに関係なく、多くの人の興味を引くために、おもしろかったり過激だったりする情報がつくられているかもしれないのだ。事実かどうかが不確かなものだとしても、そういった情報ほど「シェア」されて広まってしまふという危険がある。

⑪ 次の日友達と話すと、だれが助けたのかという話題になった。友達は動画サイトの有名人が「ヒーローの小学生」をさがしていると教えてくれた。いつしか助けたのは「小学生」と決め